2011 2.5 287号
南日本新聞
フェリア Felia!
FASHION EATING LIFE INFORMATION AMUSEMENT
[発行部数]000,000部　編集・発行／フェリア編集室　TEL.099(813)5069

コーヒーがつなげる出会い広げたい



コーヒー販売・教室主宰

ジニス　葉子（ようこ）さん（34歳）

DINZ SPECIALTY COFFEE（ジニス スペシャリティ コーヒー）（鹿児島市）

Profile　1976年鹿児島市生まれ。山口短期大学児童教育学科卒業後、96年から1年半、ブラジル・ベレン市で日本語教師として働く。2002年ペリクレス・ジニスさんと結婚、ブラジルに渡る。06年からコーヒースクールで学び、09年帰国。同年11月、鹿児島市に「DINZ SPECIALTY COFFEE」＝099(243)5551＝を設立。11年2月中旬、「DINZ CAFE」オープン予定。

「コーヒーは、出会いを生む不思議な飲み物なんです」。いれたてのコーヒーの豊かな香りに包まれながら、笑顔を浮かべる。ブラジル人の夫ペリクレスさんと二人三脚で、鹿児島市でコーヒー豆販売とコーヒー教室を始めて1年。「1杯のコーヒーが与えてくれる豊かな時間を大切にしたい」と話す。

扱う豆は、ブラジル南東部ミナスジェライス州産。直径16㎞のカルデラの中にある、珍しい環境の農園で丁寧に作られる。その豆の中から、未熟や腐敗した「欠点豆」を1粒1粒手で取り除き、素材の味を生かすため中煎（い）りで仕上げたコーヒーは、甘みがあり、舌触り滑らか。冷めても美味だ。コーヒーを通じて恵まれたすばらしい出会いへの感謝と、これからの出会いを大切にしたい気持ちを込めて「一期一会」の「一会（いちえ）」と名付けた。

「出会いに恵まれて今がある」と振り返る。短大卒業前に進路に迷ったとき、友人からブラジルの日本語教師に誘われた。ポルトガル語は全く話せなかったが、現地の人は温かく支えてくれた。1年半の任期を終えて鹿児島に戻った後も「ブラジルを忘れたくない」と留学生の集まりに参加。そこで、鹿児島大学に留学していた3歳年上のペリクレスさんと出会った。

2002年に結婚、ブラジルへ。ペリクレスさんが歯科医、葉子さんも日本語教師として働くかたわら、2人して好きなコーヒーを学ぼうとコーヒースクールに通い始めた。農園からカップまでコーヒーの世界は奥が深く、知るほどに興味がわいた。2人で農園に1カ月通ったことも。コーヒーに情熱を傾ける講師にも出会い、「コーヒーを仕事にしたい」と2人で1つの夢が生まれた。

子育て環境など将来の人生設計を話し合った上で、2009年秋、葉子さんが帰国し鹿児島で会社を立ち上げた。3カ月後にはペリクレスさんも一時来鹿し、活動を始めた。ゼロからのスタートだったが、不安はなかったという。「2人がもっと幸せになるために選んだ道。大変なこともあるだろうけど、この気持ちを忘れなければきっと大丈夫」

2月中旬、念願のカフェを鹿児島市の中央公園近くにオープンする。昭和初めに建てられた石蔵を改装し、コーヒーはもちろん、手作りのスイーツやブラジル料理も提供する予定だ。「『いつ行っても楽しめる』スペースにしたい。観光客も立ち寄るかもしれないから、鹿児島のことも勉強しなくちゃね」。新たな出会いを2人で心待ちにしている。



クローズアップ

ある一日のSCHEDULE

7:00 起床、朝食
9:30 コーヒーの配達や袋詰め、発送準備など
12:00 昼食
13:00 2月にオープンするカフェの現場確認やメニュー試作など
19:00 夕食、休憩
21:00 メール確認、ブログ更新
24:00 就寝

お仕事DATA

①資格について
特に資格はないが、ブラジルのコーヒースクールでバリスタ、クラシフィカドール（コーヒー豆鑑定士）、コーヒーロースター（焙煎）の3コースを修了

②現在の勤務時間・休日
不定（カフェオープン後は9:00～21:00、月曜休）

③これからの目標
1人でも多くの方に親しんでもらえるカフェをつくる

▶改装工事が進む石蔵。「コーヒーを飲まない人でも気軽に入れるような空間にしたい」

今これに夢中です

読　書

ペリが先に英語で読んで薦めてくれた、稲盛和夫さんの本「成功への情熱」の日本語版を読んでいます。仕事だけでなく、生きるうえでとても大事なことが書かれています。夫婦で同じ本を読むのは初めてかも。2人で話をするのが楽しみです。